



高崎の都市集客戦略

～高崎アリーナのオープン～

公益財団法人 高崎財団

4月1日、JR高崎駅前に「高崎アリーナ」がオープンしました。オープニングセレモニーでは、ポーランドから駆けつけてくれた、アンジェイポーランドオリンピック委員会会長から、4,000人の観客に英語でメッセージが送られました。このアリーナは、交流人口の拡大を図る集客装置であるとともに、これからの高崎の国際化を担っていく施設となります。

オープニングイヤーの今年は、4月9日にサカナクションのコンサート、15日には大相撲高崎場所が開催されました。6月には日本を含めた4か国が出場する男子バレーボールワールドリーグ、リオ五輪のメダリストが出場する全日本体操種目別選手権の開催により、国内外から多くの選手と観客が高崎を訪問します。

昨年、イベントで開催した合気道世界大会では、1,100人の外国人が高崎に滞在しました。これほど多くの外国人が高崎に滞在したのは、1598年に高崎と命名されて以降、はじめての出来事となりました。

高崎市では、第2期高崎市中心市街地活性化基本計画を策定し、新たなまちづくりにチャレンジしています。今年秋には、西口駅前に、都市型ファッションビルとして高崎オーパが開店します。現在、高崎駅ビル、高崎オーパ、高崎高島屋を接続するペデストリアンデッキの工事が進んでおり、今秋にはデッキの接続とオーパのオープンで、西口駅前の様相は一変することになります。

続いて、2019年には、東口駅前に高崎市が整備を進める高崎文化芸術センター(仮称)が竣工します。国内最大級の舞台面を備えるメインホール、フレキシブルで無限の可能性を引き出すメインスタジオ、県内初の本格的な音楽専用ホールなど上信越や北関東を代表する文化施設が誕生します。

そして2020年には、東口から徒歩15分の競馬場跡地に群馬県が整備を進めるコンベンション施設が竣工します。展示場や大小の会議施設なども備わり、交流人口の増加や経済波及効果をもたらすこととなります。今まで選ばれなかった高崎市でのコンベンションの開催が可能になり、市や県経済を牽引する施設となることでしょう。

高崎市では、都市集客施設の整備(ハード)と事業の実施(ソフト)を融合させながら、集客を促しつつ、目に見える形で地域経済への波及効果をもたらす施策に取り組んでいるところです。



上空から望む「高崎アリーナ」と高崎市街地



高崎アリーナ



高崎文化芸術センター(仮称)完成予想図



群馬県コンベンション施設(仮称)イメージ図

